



http://www.kenchikunet.org E-mail:kenchiku@d2.dion.ne.jp

No.8
特定非営利活動法人(NPO法人)
建築ネットワークセンター
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3
渡辺ビル505
TEL 03-5386-0608 FAX 03-5386-1065

新宿地域の、まち防災を考える

NPO建築ネットワークセンターは、昨年10月に起きた新潟中越地震の被災地に、建築技術者を現地救援活動に延べ10人派遣しました。この救援活動の経験と総括を踏まえ、都市防災には、「人権・減災・予防」が大事であるという立場に立ち、まず事務所の周りから新宿の町を見直そうと「調査活動」を行いました。

今回、NPO建築ネットがまちを3回にわたって、延べ16人(内、新宿区議1名・住民1名含む)で、「調査」したのは、まず自宅から新宿区が指定した「避難所」まで安全にたどり着けるのか?実地調査することでした。

「調査結果」は、私達が想像する以上に危険であることを実感しました。この地域は昔ながらの狭い路地が入り組んだ木造住宅の密集地帯です。迷路のように曲がりくねって、段差が多く、道の真中に階段があり、路地の両側は、万年塀やブロック塀、しかも劣化が進みヒビ割れている塀まであります。上を見上げれば、電柱のトランス・店舗の看板・老朽化した木造住宅。中には、阪神淡路大震災で多くの被害を受けた細い柱で支えられたピロティー(車庫等)住宅など、危険が多く「避難所」まで安全にたどりつくことは困難であると実感しました。

震災対策の活動を広げよう

この町は、あの大震災の教訓を生かしているのだろうか?と思うほど無防備な町並みでした。私達は、この「実地調査」を踏まえ、地域の商工団体が主催する「耐震勉強会」に技術者を派遣したり、また、この「調査」に参加された新

宿区議がこの問題を議会で質問するなど、NPO建築ネットの活動が広がりを持ちはじめました。余談ですが、東電に対しトランスの安全性について質問メールを送りました。その回答は「昭和54年に東芝川崎工場で振動実験し、加速度0.5G(震度階級7以上)を加え、十分安全であることを確認」さらに「捕縛バンドを昭和62年12月より現場適用しているので大丈夫」とありました。平成7年の阪神淡路大震災のあと、電柱の倒壊などの教訓は、生かされているのでしょ



つぶれた家で、路地は歩けない(阪神・芦屋)

うか。町の危険度を多くの市民に知らせ、あわせて行政(区政や都政)に対して、「提案・要望」を行い、「安全で住みよいまちづくり」に役立てる活動は、まさに私たちNPO建築ネットの社会的責任であると考えています。

阪神淡路大震災、新潟中越震災、福岡西方沖地震から何を学ぶか

講演会 首都圏の地震と災害を考える

日時: 2005年7月16日(土) 午後1時30分~5時
会場: 全理連ビル 9階C号室 (JR代々木駅北口前 TEL.3379-4111)
講師: 地震専門学者 水野浩雄氏 地盤工学博士 小松田精吉氏
一級建築士 森川純一氏

「講演会」は、「首都圏直下型地震への備え」を訴え続けて研究活動をされている地震学者に、最新の研究内容を中心に、地盤工学博士から、地盤と地震被害の死角、建築士からは都市避難路の危険物調査報告を行い、具体的な対策も提案します。会場からの発言を歓迎します。

参加費: 当日参加費一人 2,500円(予約参加券2,000円)
申し込みは 7月10日まで。
電話 03-5386-0608 FAX:03-5386-1065
主催: NPO法人建築ネットワークセンター

マンション管理 無料相談

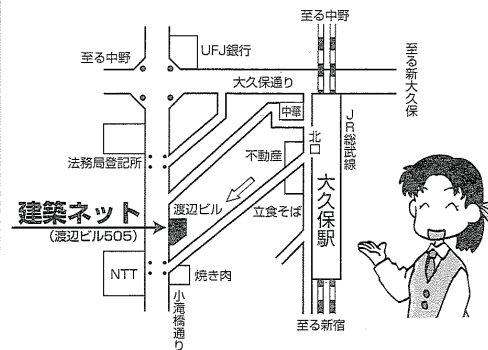
ご希望にこたえて定期開催とします。

日時 毎月第3土曜日
(祝祭日除く)14時~17時

要予約 弁護士、建築士、専門家が対応します。

場所 NPO建築ネット事務所

★専有部分(お住まい)の事は
今まで通り(下記)月曜です。



相談窓口のご案内

建築問題で
お悩みの方は、
まずお電話または
FAXをどうぞ!

定期相談日

毎週月曜(祝祭日除く)13時~16時
事前にご予約いただければ、内容に応じ
専門家が対応します。
※事務所でのご相談は無料。現地へ出かけて調査診断
の実務などをおこなう場合は有料となります。
※遠方の方には、各地の友好団体を紹介します。

電話相談

相談日にかぎりません。お気軽にどうぞ!(無料)
●事務所開設時間は、午前10時から午後5時(平日のみ)



# 耐震診断のおすすめ 要所の補強で、 大きな被害を避ける

先日6月1日、夕刻から夜半にかけ東京湾を震源とした弱い地震が数回にわたり発生しました。周期説の真偽はともかく地球は生きています。首都を襲う大きな地震がいつ発生してもおかしくないでしょう。

首都圏で大地震が起きると物的被害はもちろん、人身の安全に対する不安も大きいものがあります。

NPO建築ネットに持ち込まれる相談の多くは住宅、マンションの不具合、瑕疵の事後対応です。このため、これらの事故を未然に防ぐ提案活動に力を入れています。

その一つが住宅の耐震診断（有料）です。

災害は忘れた頃にやってくるもの、後で悔やまぬよう平常時にこそわが家の健康診断をなさっては如何でしょう。

最近の耐震診断実例をあげてみますと、都心から少し離れますが比較的地層のよい千葉県習志野の台地で築32年のM邸、木造住宅、2階の物

干しがモルタル床のため落下が心配ということでした。

調査の結果、物干の重量が原因と思われる床の傾斜が認められました。また全体に耐力壁量が若干不足、特に玄関周辺は吹抜で窓が多く気持ちが良いのですが床も耐力壁もありません。検討の結果、建物全体の剛性（主に耐力壁）バランスにかたよりのあることが判明しました。対策として玄関周辺に筋違を意匠的に配し、物干しの下部には筋違壁、梁などを補強することとしました。

これで大きな被害は避けられると思います。

耐震補強は既存建物の補強工事のため、完璧を満たすことは困難ですが要所は確実な補強を行うことが大切。その他の部分は予算、建物の経年状態により適宜判断せざるを得ません。

一級建築士 日比野 正壽



ティーたいむ



## 夕食調理中に大地震が!! 中越地震、聞き取り記

「その時、流し前で煮物をしていました。突然、煮物の鍋が飛び上がりました。立ってられなく流しにしがみつきました。上から横からあらゆる物が空中を飛んできて体に当たり足許を埋めました。鍋がレンジごと左に飛びました。冷蔵庫の扉が音を立てて開き、中の物が飛び出



しました。とっさにレンジを見たら火は消えていました。ガスホースでぶら下がっていました。居間も同様に建具、壁土、ガラスなどが飛散していました。

地震が怖くてその後、家には入れません。役所の調査で入ったときは食物が腐ったにおいがしていました。その後、今日まで手をつけていません。」

## 身近なところから備えを

被災の概要は、被災1年にもならないのに、多くの人々の脳裏から忘れかけています。まして、家屋の倒壊までには至らなくても聞き書きのように、精神的苦悩を引きずることの大きさを記憶に留めなければなりません。

今すぐ出来る対策を、①家具、台所機器、照明器具、額縁などの転倒と落下防止 ②非常持ち出し品の準備 ③消火器の備え ④電気の配線、ガス機器、石油機器の点検などがあります。備えに役立つ情報は、地元の消防署や自治体の防災関係の部署で得られます。

さらに、都内には実際の地震対策の出来る防災教育センターがあります。家族やグループで体験するのもよいでしょう。（岡本昭子）

## 質問箱 マンションの地震対策

**Q** マンション住まいです。自宅で大震災になったらと不安ですが？

**A** マンションは、よほどの事が無い限り倒壊する恐れはありません。（あわてて外に逃げない。）家具転倒が危険です。

◆部屋の中にいるとき守るべき4つのポイント

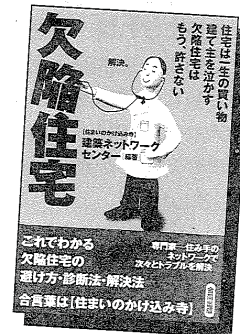
① 身の安全を守る。机やテーブルの下、無ければ座布団などで頭を保護する。家族に声をかけ安全を確認する。

② 脱出口を確保。玄関ドア又はベランダ、窓を開け逃げ口を確保しましょう。

③ 火の始末。揺れが激しい場合は収まってから火を始末。身を守る事が優先。ガスの元栓を締める。電気は、通電火災防止のため電気ブレーカーも切る。

④ 揺れが収まっても油断禁物。改めて家族の安全を確認。大きな地震の後は余震が発生する。ラジオやテレビなどから正しい情報入手して行動。

## BOOKS



【発行】  
合同出版  
【定価】  
1,600円+税

ご注文は書店または当センターまで  
建築ネットワークセンター  
TEL.03-5386-0608 FAX.03-5386-1065